



●発行年月日/平成30年4月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 丸山 尚嗣
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>



「海老川の桜」当院職員撮影



新年度を迎えて

船橋市立医療センター院長 丸山 尚嗣

当院の近くを流れる海老川の岸边にも桜が見事な花を咲かせる季節となりました。4月から新年度が始まると共に当院の人事も新しくなります。9年間にわたり当院の改革を推進していただいた鈴木一郎先生が病院事業管理者を退任され、高原善治先生が新しい病院事業管理者に就任されました。また事務局長、診療局技監をはじめ多くの人事異動があります。新しい体制のもと、さらに信頼される医療を目指してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

当院は救急医療や高度医療を担う地域の中核急性期病院として機能の充実を図ってきましたが、今年度は新たに脳卒中センターと乳腺センターを立ち上げました。脳卒中は発症直後の急性期に専門的な血管内治療、薬物治療あるいは手術等を行うことによって、より良い快復が期待できます。当院の脳卒中センターでは、脳神経外科と脳神経内科が協力して、24時間これらの専門的治療を速やかに施行できる体制を整えて患者さんの治療にあたります。また乳癌の治療は目覚しく進歩し、乳房温存手術は標準的治療になりました。この治療を適切に行うには、切除断端やリンパ節転移の術中迅速病理診断、残した乳腺組織への術後放射線治療がとても重要になります。乳腺センターでは、乳腺外科医、乳がん認定看護師、病理部門、放射線部門など多職種が連携して患者さんに最善の治療を行います。さらに乳腺外科医と形成外科医が協力して全摘術後の乳房再建術も行います。今年度も当院は質の高い医療の提供に努めてまいります。

目次

病院事業管理者あいさつ.....2	医療を学ぼう！in 図書館／DMAT訓練に参加しました ...7
退任者・新任者あいさつ／人事異動紹介3	公開医療講座／がん市民公開講座.....8
特集 新たな組織ができました.....4～5	救命救急センターの現場から／院内講演会／職員募集.....9
感謝状を贈呈／当院で働く人々／研修医のつづき.....6	外来担当医師一覧表.....10

病院事業管理者あいさつ

新 船橋市病院事業管理者 高原 善治



当院は昭和58年に開院。それ以降、救急医療とがん診療などの高度な医療を中心とした急性期医療を担う船橋市の中核病院として、機能の拡大を推し進めてきました。平成21年には経営形態が地方公営企業法一部適用から全部適用に移行し、鈴木一郎先生が病院事業管理者に就任され、さらに改革・改善を行ってきました。この度、鈴木一郎先生が3月末日に病院事業管理者を退任されることになり、4月1日より引き継ぐことになりました。

今年は、4月から診療報酬・介護報酬のダブル改定が施行され、また今後さらに進む高齢化に対応すべく2025年に向けた地域医療構想が進んできています。限られた医療・介護資源を効果的に活用することにより、市民の皆さんが地域において安心して質の高い医療・介護サービスが受けられるようにすること

を目的としています。一方では医師の働き方改革が勤務体制や賃金を中心として議論されています。これらの問題は、その場その場での対応策を検討するだけではなく、エビデンスから来る長期的な視点に基づく、価値観やビジョンをもった変革が必要と考えています。今は個人の能力や頑張りに依存することも必要な時代ですが、今後は一人ひとりのスキル(対人能力、複雑な協働を行う能力、その場に合わせた創造能力など)を養っていくことも重要となり、チームで能力を高めていく姿勢が必要と思われます。また他の医療施設や部署とも同様な観点で連携を深めていくことが重要と考えています。

当院では現在の病院の老朽化・狭隘化のため、平成35年(2023年)に新病院建て替えの予定で検討も始まっています。今後も多くの問題に対応していかなければなりません。患者さんへの責任、職員への責任、地域コミュニティへの責任、行政への責任を常に念頭に置き、さらに前進して行きたいと思えます。

前 船橋市病院事業管理者(現 病院局特別顧問) 鈴木 一郎

平成30年3月をもって船橋市病院事業管理者を退任しました。その後任に高原善治前病院局参与が就任しました。

平成21年、当院が地方公営企業法全部適用に移行してまもなく、この季刊誌「船橋市立医療センターNews」の発行を始めました。職員が横断的に問題意識を共有し、同時に外に向かっては院内の出来事を発信し、市民にとって当院がより身近なものになればとの思いからです。この“News”は当院の発展と共に号を重ね、すでに本号は36号になりました。

第1号で、職員689人を乗せた巨艦はゆっくり動き出した感があると書きましたが、今の当院は1,000人の職員を乗せた、まさに巨艦となり、目標に向かって波を蹴立てて巡行している勢いです。当院はまだまだ伸びる病院です。これからもその速度を緩めることなく、高度急性期病院としての体制強化、断らな

い救急に向けての体制整備、専門医制度への対応など多くの問題を乗り越えて進んで行っていたきたいと思います。

当院の発展の9年間は、私にとってはとても充実した思い出深い9年間となりました。最後の年の平成29年度に、全国900の自治体立病院から選ばれた、“自治体立優良病院総務大臣表彰”の受賞があり、そしてDPC特定病院(DPCⅡ群)に再指定されました。私にとって大きな贈り物を頂いた気持ちです。これからの新病院建設に向けて医療センターがさらに成長されることを祈っています。



退任者あいさつ



診療局技監（形成外科部長） 薬丸 洋秋

3月31日をもちまして定年退職することになりました。当院には救命救急センターができた平成6年4月より、救命救急センターのスタッフとして勤務し始めて、24年間仕事をさせていただきました。平成8年より形成外科が独立し部長として形成外科診療を始めながら、救命救急センターの当直、ドクターカー同乗もするなど、忙しい毎日をご過ごしてきました。このような充実した医師としての生活ができたことは、医師、看護師を始めスタッフの協力があったからこそできたことと感謝しています。色々な患者さんに出会い、長期間、経過を見させていただいたこと、良くなっていく患者さんを診るのが、医師としての生きがいでした。まだまだ、医療に携わる事があると思いますが、人生の一つのステップとして区切りをつけることとなります。医師、一人の職員として、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



事務局長 長島 由和

3月31日付をもちまして、定年退職いたしました。
昭和56年に船橋市役所に就職し37年になりますが、若い頃の数年間、仕事に没頭し今の自分を形作ったともいえるこの医療センターで最後の3年間、仕事ができただけの何か縁あってのこととっております。
医療センターは、以前から施設が狭隘で市民の医療ニーズを十分に満たせない、また老朽化が著しく病院としての診療機能の維持が困難になりつつあるという課題がありました。現在は建替え移転の計画が進んでいます。
新病院の具体的な計画はこれから本格化します。
残念ながら私自身はこれからの病院建設に参画できませんが、5年後には素晴らしい病院ができていると確信しております。
診療報酬の問題等々、昨今の病院経営は厳しさを増していますが全職員が一丸となって困難を乗り越え、医療センターがますます発展されることを期待しております。

新任者あいさつ



診療局技監（呼吸器内科部長） 中村 祐之

この4月より、当院の診療局技監を拝命いたしました。
当院は三次救急医療機関、地域医療支援病院および地域がん診療連携拠点病院であり、船橋市及び東葛南部地域の中核医療機関です。私が当院に赴任してから16年半が経ちます。この間、呼吸器内科医として、これら当院が担う責務を果たす医療を提供できるように、やりがいを持って診療にあたってきました。これからは病院の運営にも携わることになり、益々身の引き締まる思いです。
現在、当院は新病院の建設に向けて準備を進めている段階ですが、現在の病院の段階から、患者さんがいざという時に安心して頼れる病院であるように、微力ですが尽力したいと思っております。今後ともよろしく願いたします。

人事異動紹介 (4月1日)

	新任者	退任者
病院事業管理者	高原 善治	鈴木 一郎
技 監	中村 祐之	薬丸 洋秋

看 護 局	新任者	退任者
A3病棟 棟師長	宮嶋 明子	村山美佐子
A4病棟 棟師長	飯島 貴子	山田 綾子
A5病棟 棟師長	村山美佐子	坂庭 雅代
A6病棟 棟師長	山田 綾子	永江 咲子
E3病棟 棟師長	坂庭 雅代	宮嶋 明子
手術室 棟師長	深澤 里佳	川崎志紀子
救急外来 棟師長	君野 寿美	佐藤すみえ

医 局	新任者	退任者
形成外科 部長	内田 龍志	薬丸 洋秋
救急科 部長	角地 祐幸	-
脳卒中センター長	内藤 博道	-
乳腺センター長	松崎 弘志	-

診療科名	採 用			退 職		
呼吸器内科	小谷野友里	葉山 奈美		巴山 紀子	鹿野 幸平	廣石 拓真
消化器内科	石井 清文			石垣 飛鳥	金子 達哉	
循環器内科	石脇 光	降旗 修太				
小児科	力石 浩志	飯島 雄太		内山 薫	伊藤 祐大	
脳神経内科	鶴岡 淳					
外科	平澤壮一朗	朝田 慎平		鈴木 啓介	加藤直菜美	
乳腺外科	南村 真紀					
整形外科	榎本 隆宏	沖松 翔	奥山 晃平	新保 純	脇田 浩正	正田 純平
形成外科	内田 龍志	花野 舞		薬丸 洋秋	渡邊 浩志	
脳神経外科	上田浩太郎			陶山謙一郎		
心臓血管外科	谷 建吾	橋本 昌典		野村 亜南	金行 大介	
皮膚科	奥山智香子			栗田 遼二		
泌尿器科	金 尚志	日野 大地		安藤 敬佑	川端 慧	
産婦人科				鈴木由梨奈		
精神科	黒河内敏成					
放射線診断科	中條 秀信					
救命救急センター				高橋 梓		

※人事異動に伴い、外来診療体制が変更されています。(詳しくは、10ページをご覧ください)

特集

新たな組織ができました

脳卒中センター、脳神経内科、乳腺センター

当院では平成30年4月1日付けで脳神経内科を新設し、全部で29診療科を有する病院になりました。また、様々な職種がチームで治療にあたり、迅速に脳卒中に対応するために脳卒中センターを、患者さんに合った乳がん治療を提供するために乳腺センターを開設しました。

今回の特集では、新設されたそれぞれの診療科やセンターの特徴、今後の抱負などについて所属長に語ってもらいました。

脳卒中センター



内藤 博道
脳卒中センター長
(兼脳神経外科部長)

脳卒中とは脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3疾患の総称です。突然発症し、生命にかかわる重篤な病気で、超急性期からの治療がとても重要です。脳梗塞は、脳の動脈に血栓がつまり、血液が供給されなくなることで脳が壊死してしまう病気です。超急性期に血栓を除けば、脳が助かるチャンスがあります。治療法として発症から4.5時間以内にt-PAという薬を注射する血栓溶解療法や、8時間以内にカテーテルを用いる血栓回収療法があります。血流の再開が早ければ早いほど、脳梗塞にならずに済む可能性が高まります。脳出血は、脳を通る細い動脈が破けて脳の中に出血を起こす病気です。くも膜下出血は、脳の太い動脈に瘤ができて破け、脳の表面や隙間に激しく出血します。いずれも重症になり、死亡率の高い疾患です。超急性期からの厳格な全身管理のもとで、内科的治療や開頭手術、内視鏡手術、血管内治療を行います。このように脳卒中の診療は緊急性と高い専門性が求められます。

当院では、開院以来、脳卒中診療に力を入れており、平成26年11月からは脳卒中ケアユニット（SCU）6床を開設、平成29年9月には9床に増床し、実績をあげてきました。平成30年4月からは脳神経外科と、新設する脳神経内科が脳卒中センターとして脳卒中の治療を行っていくことになり、ますます充実できると考えています。そして脳卒中センター開設を機に、看護局、リハビリテーション科、放射線技術科、臨床検査科、薬剤局など各部門との連携を深め、より質の高い医療を提供できるように努めてまいります。

脳神経内科

平成30年4月より脳神経内科医として赴任しました鶴岡淳です。私は高校卒業までの18年間船橋市で生まれ育ちました。かねてより希望していました地元千葉・船橋で医療を通じて貢献できること大変うれしく思っています。

脳神経内科とは、脳、脊髄、神経、筋肉の病気を診る内科です。症状としてはしびれ、めまい、力の入りにくさ、意識が悪い、物忘れなど多岐にわたります。このような症状からどこに病気があるのかを見極め、適切な治療を行うことが我々の仕事です。我々の扱う病気は、脳卒中、認知症、てんかん、神経難病（パーキンソン病、筋萎



鶴岡 淳
脳神経内科医長

縮性側索硬化症など)があります。当院では新たに脳卒中センターが立ち上がり、脳神経内科も脳卒中センターの一員となります。そこで当院の脳神経内科としては、まずは脳卒中中の内科治療を中心に、その後は一般的な神経疾患を担える環境を作っていきたいと考えています。

当院では初めての脳神経内科医の常勤医となります。何かありましたらご相談ください。脳神経内科、鶴岡共々よろしくお願いいたします。

乳腺センター



松崎 弘志
乳腺センター長
(兼乳腺外科部長)

かつては、乳がんの診療は、いわゆるお腹を切る一般外科医が行うのが普通でした。当院の開院時もそうだったのですが、平成5年に千葉大学から唐司則之先生が赴任され、乳がん専門の診療が始まりました。これは当時としては先端的で、千葉県でも数えるほどだったと思います。その後、治療の急速な進歩に伴って専門化がさらに進み、一方でさまざまな職種が力を合わせたチーム医療が必要となってきました。

当院では、日本乳癌学会の専門医3名、乳がん認定看護師2名、乳房再建を得意とする常勤の形成外科医、常勤の放射線治療医、というスタッフが揃いました。この全てが揃っている施設は県下でも数えるほどしかないくらいの充実した体制です。そして今後さらに高度な乳がん診療を目指して行くために、このたび乳腺センター

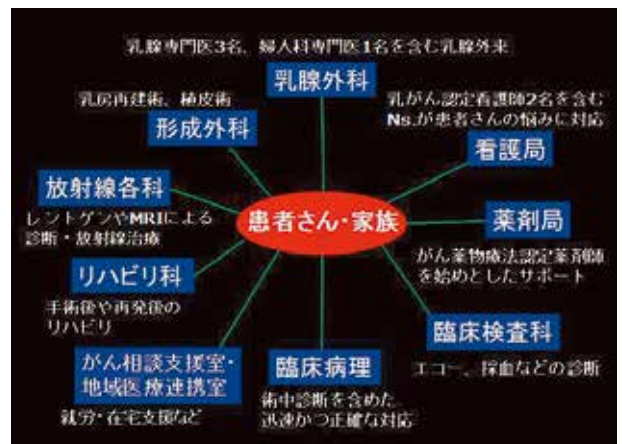
を開設することになりました。

乳がん患者さんは増え続け、現時点での日本人女性における生涯罹患リスクは9%（11人に1人）と言われていますが、①正しく診断してきちんと治療すれば治りやすいがんである、②若年の働き盛りや子育て世代に多いため、治療以外のさまざまな問題を抱えて闘病していかなければならない、という面があります。

このため、手術、薬物療法、放射線治療を組み合わせたオーダーメイドの「集学的治療」を行うことが重要であり、同時に、精神面や、就労・在宅療養のための支援、症状緩和のための治療などが必要となってきます。乳腺センターでは、こういった全てのことを各部門が連携して行い、さまざまな乳がん患者さんに寄り添えるような診療を提供していきたいと考えています。



手術件数推移グラフ



乳腺センターの概念図

夏見写真クラブに感謝状を贈呈

平成29年11月29日にボランティア表彰式が行われ、当院の院長から夏見写真クラブの原会長に日頃の感謝を込めて感謝状を贈呈しました。

夏見写真クラブの皆さんは患者さんの心を癒す素敵な写真をボランティアとして定期的に提供してくださっています。ご提供いただいた写真はB館1階「金杉写真館」のコーナーに飾ってありますのでご覧ください。

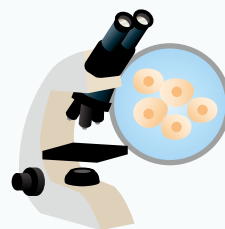


当院で働く人々

～病理医の仕事～

患者さんの身体から採取した肉片などの組織を顕微鏡でのぞいて、何の病気にかかっているのか調べる作業を病理診断といいます。この病理診断をする医者を病理医と呼びます。誤解されやすいのですが、内科や外科の医者が病理診断をしているわけではありません。アイドルグループTOKIOの長瀬さんがテレビドラマで演じた白衣を着ない医者も病理医です。女優の芦田愛菜さんの将来の夢も病理医だそうです（ビックリ）。

そんな病理医が当院にも一人います。患者さんに会うこともなく、いつも検査室の奥にこもって仕事をしています。病院のなかにも、彼が医者だということを知らない職員がたくさんいます。傍から見ると暗い感じで可哀そうな気もしますが、本人はそんな毎日を結構気に入っているようです。



研修医のつぶやき



初期臨床研修医2年 山田 優希

日増しに暖かな陽気になり、過ごしやすい季節となってきました。春は、1年で一番好きな季節でしたが、昨年花粉症を発症してからは少し憂鬱な時期となりました。また、環境の変化の多い時期です。私たち初期臨床研修医も、3月には1年間頼りにしてきた先輩方を送り出し、4月からは新たな後輩達を迎え、2年目として1年生を指導する立場になりました。当院で働きはじめて、あっという間に1年が過ぎ去り、どれだけ成長することができたのかと少し不安に思うこともありますが、患者さんのお話を聞き、上級の先生方の指導を受けながら、医師として成長していくために日々努力を続けたいと思います。

さて、話は変わりますが、当院では3次救急病院として救急診療に力を入れています。初期臨床研修医は

全員、救急診療に関するいくつかの講習会を受講することになっており、2月にはPTLSという外傷初期診療の講習会に参加しました。事故で大怪我をした患者さんなどを想定し、自分が司令塔となって救急車を受け入れ、治療を進めるロールプレイや、模型を使ったトレーニングを行いました。まだまだ未熟な私たちが、実際の現場でそのような立場に立つのは先のこととは思いますが、日々の診療に役立つ知識を学ぶことができ、有意義な経験となりました。



病院ボランティア（患者さんの案内や図書整理など）を募集しています。詳しくは、医事課まで

医療を学ぼう! in 図書館

船橋市西図書館で毎月医療講演会と相談会を開催しています。ぜひご参加ください。

最近の講演会について

第16回 1月 「乳がんの診断と治療～もっと知ろう!乳がんのこと～」 乳腺外科部長 松崎弘志

11人に1人がかかる乳がんについて、基礎から最新の治療まで、わかりやすい話がありました。

第17回 2月 「膝が痛い!変形性膝関節症からリウマチまで」 整形外科部長 高瀬完

いくつになっても歩ける膝でいるために、日々の生活にとりいられる生活習慣の話がありました。

第18回 3月 「消化器がんに対する手術治療」 消化器外科部長 夏目俊之

消化器がんの標準治療から負担の少ない手術まで、具体的な話があり、皆さん真剣に聞いていました。



2月の講演の様子

医療講演会予定 14:00～15:00 要申し込み 先着50名

日程	演題	演者
4月19日(木)	高血圧と言われたあなたへ	循環器内科部長 福澤茂
5月17日(木)	川崎病について	小児科部長 佐藤純一
6月2日(土)	心臓血管外科の病気のはなし	心臓血管外科副部長 櫻井学

※平成30年4月より、医療講演会も申し込み制となりますので、お気をつけください。

予定は変更する場合がありますので、広報ふなばしや図書館HP等でご確認ください。

一講演会、相談会申し込み先 毎月1日9:30より(6月は5月15日より受付)
西図書館 船橋市西船1-20-50 TEL 047-431-4385

お知らせ 近くの図書館でも開催してほしいという声にお応えて、東図書館で出張講演会を開催します。

日時:5月24日(木) 14:00～15:30 場所:習志野台公民館 要申し込み 先着50名

演題:「胃がん・大腸がんのお話～早く見つけて早く治療～」 演者:消化器内科副部長 小林照宗

申し込み先:東図書館 TEL:047-463-3611 5月1日(火) 9:30より受付

医療連携・患者支援センター 石川 晴子

DMAT訓練に参加しました

1/24 千葉県国民保護共同実動訓練

内閣府、千葉県、千葉市が主催となり幕張メッセイベントホール内において化学剤(サリン)が散布され、多数死傷者が発生するというシナリオで訓練が行われました。訓練には約50機関、約1,000名が参加し、当院のチームは発災現場での除染後トリアージを担当しました。このような緊迫した大きな災害現場では、自衛隊、警察、消防、行政等の各機関との連携が非常に大事になると実感しました。今後、東京オリンピック・パラリンピックも控



えているので化学剤等によるテロ対策も視野に入れながら備えていきます。



1/27 千葉県消防広域応援隊合同訓練

千葉県消防学校にて千葉県北西部を震源とした直下型地震が発生し、船橋市は甚大な被害を受け、市内の高速道路上では多重衝突事故が発生したというシナリオで千葉県消防広域応援隊との連携訓練が行われました。現場では千葉医療センターDMATと一緒に救助された傷病者を二次トリアージし、搬送の優先順位決めを行いました。船橋市内で十分考えられる事案なのでとても有意義な訓練となりました。また、本訓練でチームの動き方に課題も見えたので、見直しを行い、有事に活かしていきます。

当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。



「白内障とその治療について」を開催

2月1日（木）に市民文化創造館（きららホール）にて、小林晋二眼科部長を演者とした公開医療講座を開催しました。今回のテーマとなった「白内障」は主に加齢によって引き起こされ、過去の調査では80歳代でほぼ100%の人が発症するというデータも出ています。講演では、白内障の症状や人工レンズを用いた治療法について、わかりやすく丁寧に解説を行いました。

小林眼科部長は、「現時点では、白内障の進行を抑制する薬はありますが、一度濁ってしまった水晶体を透明に戻すことが出来る薬はありません。そのため、濁った水晶体を取り出し、人工レンズに置き換える手術が主な治療法となっています。手術と聞くと嫌なイメージを持っている方もいらっしゃると思いますが、放っておくと症状が進行し、治療が難しくなる可能性があります。少しでも違和感を覚えたら、あまり怖がらずに早い段階で医師に相談していただくことが大切です。」と語りました。

ご来場いただいた方々からは多くの質問をいただき、白内障に対する関心の高さがうかがえました。



第11回 がん市民公開講座

「がん治療の先端技術と基本」を開催

3月4日（日）に市民文化創造館（きらら）にて第11回がん市民公開講座を開催しました。今回はテーマを「がん治療の先端技術と基本」として佐藤信夫泌尿器科部長が「前立腺癌に対するロボット支援手術」、松原弘樹栄養管理室長が「がんと栄養」を演題に講演を行いました。

ロボット支援手術は患者さんへの負担が少なく、副作用・後遺症を軽減できる治療として期待されています。平成30年度診療報酬改定で適応拡大され、今までより幅広い診療科で保険診療ができるようになります。本講座では国内でも施行件数が多い前立腺がんのロボット支援手術について実際の手術ビデオも使用し解説しました。

また、「がんと栄養」では、治療技術や薬の華々しい進歩の陰に隠れ一般の方にはわかりにくいところですが、人の体を維持し病気を予防し治療する上で最も基本となる食事について幅広くわかりやすい説明を行いました。

当日は120名程の方が参加され熱心にご聴講いただきました。



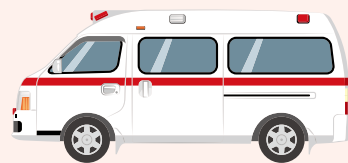
※この「医療センター News」のバックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます。

救命救急センターの現場から ～お子さんの安全～

救命救急センターには不注意からの事故による乳児、幼児や小児の傷病者がたくさん搬送されて来ます。元気に退院していただければ良いのですが、不幸な結果となる場合も少なくありません。ただこういった事故は、ほとんどのものが普段から心がけていれば予防することが可能です。

各ご家庭でお子さんのために、事故を防ぐために以下の項目を確認してみてください。まだ実施していない項目があれば大至急、対応してください。

1. 車内では全員が正しくシートベルトを締めること。後部座席で後ろ向き用の乳児用チャイルドシート、適正な小児用チャイルドシートを使用していること。
2. 階段の最上段と最下段には幼児用柵（子供の階段への出入りを制限するもの）を使用すること。
3. 落下を防ぐために全ての窓に鍵をつけ、開く窓の低い部分には柵をつけること。
4. 自転車に乗るときは必ず安全ヘルメットをかぶせること。
5. 入浴中は必ず乳児や幼児と一緒にいて、転んでも沈んでしまうことがない深さで入浴させるか横滑り防止マットを使用すること。お風呂の水は普段は抜いておくこと。
6. 健康な満期産の乳児は仰向けあるいは横向きで寝かせること。うつ伏せで寝かせないこと。
7. 自家用車を駐車させる時、決して子供を降ろして一人にさせないこと。駐車してから一緒に降りること。
8. 薬やビタミン剤などは子供がいたずらで開けることができない容器に保管し、子供が手の届かないところに保管すること。
9. 熱い食べ物、飲み物を扱うときは、子供を近づけさせないこと。
10. 乳児、幼児は何でも口に入れようとしてします。タバコ、コイン、玩具など小さいものは自由に取れる位置に置いておかないこと。



まだまだ挙げればたくさんありますが、ちょっとしたことを注意するだけで、不幸な事故は防ぐことができます。しっかり対応してください。万が一、何かあった場合は、迷わず119番通報してください。

救命救急センター長 境田 康二

院内講演会を開催しました



2月19日（月）に千葉大学大学院工学研究科の中山茂樹教授を講師にお招きし、「急性期病院の建築計画」をテーマとした職員向けの講演会を開催しました。講演では、構造的・機能的に長持ちする病院の特徴や、患者さんと医療スタッフの距離が近く安全な院内の設計、災害時にも高度医療を提供するために大切な事など、他病院の事例を交えた貴重なお話を聞くことができました。

船橋市では当院の建替えに向けた検討がなされていますが、今後、新病院建設に向けて当院職員の意見も踏まえた、より詳細な検討を重ねていく必要があります。今回の講演を参考に、当院が引き続き高度急性期病院として市民の皆さんの安心と安全に寄与できるよう、機能的な病院づくりを目指していきます。

平成30年度 募集概要

看護補助者(パート)・クラーク(パート)募集

- 資格／特になし
 - 時給／1,040円（看護補助者）、900円（クラーク）
- ※詳細は当院ホームページ（<http://www.mmc.funabashi.chiba.jp>）をご覧ください。



外来担当医師一覧表

平成30年4月1日現在

		月	火	水	木	金	備考
内科	新患	石井 清文	多部田弘士	下山 立志	中村(後)/循環器内科医	小谷野友里 粟山奈美	消化器の(月)は第1・3水本、第2・4・5 関 消化器の(水)は第1・3水本、第2・4・5 東郷 消化器の※1は午前、※2は午後 消化器の下段は原則、消化器内科からの予約患者のみ
	呼吸器	中村 祐之 小谷野友里	天野 寛之 中村 純	葉山 奈美 藤田 哲雄	中村 祐之 中村 純	藤田 哲雄 天野 寛之	
	消化器	水本英明 ^関 厚住 東郷 聖子	安藤 健 関 厚住 ¹ /古賀邦林 ²	小林照宗 ^{東郷} 聖子 安藤 健 ¹ /藤井渚夕 ²	古賀 邦林 水本英明 ¹ /石井清文 ²	藤井 渚夕 小林 照宗	
	代謝腫瘍	岩岡 秀明	下山 立志	中村 俊介 平野 聡	下山 立志	岩岡 秀明 平野 聡	
心臓血管センター	循環器科 予約	稲垣 雅行 内山 貴史	福澤 茂 黒岩信行 沖野 晋一	内山貴史・稲垣雅行 岩田 隴	黒岩 信行 慎清	福澤 茂	午後1:30～ ※第2高原 ※第1・3・4・5茂木
	新患	沖野晋一/石脇 光	丘 慎清	芝山納恵 内山貴史	降旗 修太	岩田 隴 黒岩信行	
	心臓血管外科	(手術日)	高原善治 茂木健司	(手術日)		(手術日)	
緩和ケア内科				[交替医]	[交替医]		午前9:00～ 予約患者のみ
精神科	新患		宇田川雅彦	宇田川雅彦	榎原 雅代		新患は事前予約が必要(電話可)
	再来	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦 榎原雅代		
小児科		力石 浩志 伊賀 裕子	佐藤 純一 飯島 雄太	丹羽 淳子 [交替医]	木谷 豊 竹本 直輝	伊賀 裕子 坂井 美穂	
外科	消化器・一般	宮崎 彰成 吉岡 隆文	夏目 俊之 佐藤やよい	丸山 尚嗣 野手 洋雅	田中 元修 貝沼	宮崎 彰成 松本 泰典	(月) 松崎・青柳が隔週(午前のみ) (水) 丸山 午前のみ (水) 吉原 午後のみ
	乳腺	松崎弘志 青柳智義 玉貫 圭甲	吉原ちさと	松崎 弘志 青柳 智義 南村 真紀 吉原ちさと		松崎 弘志 青柳 智義 南村 真紀	
	新患	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	
整形外科		[交替医] 秋本 浩二 (手術日)	池之上純男 高瀬 完 榎本 隆宏	三村 雅也 鮫田 寛明 染谷 幸男	[交替医] (手術日)	[交替医] (手術日)	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
形成外科		(手術日)	内田 龍志 花野 舞	内田 龍志 花野 舞	薬丸 洋秋 (手術日)	内田 龍志 花野 舞	(金) 内田(午後)は乳房再建外来
脳神経外科		内藤 博道 新美 淳 根本 文夫	[交替医] (手術日)	畑山 和己 内藤 博道 森脇 拓也	安間 芳秀 [交替医] (手術日)	根本 文夫 畑山 和己	(月) 根本、(水) 内藤 (金) 畑山は新患患者のみ (木) 安間は第1・3・5
脳神経内科			鶴岡 淳				
呼吸器外科		一ノ瀬修二 荒牧 直	一ノ瀬修二 荒牧 直	(手術日)	一ノ瀬修二 木下 孔明 荒牧 直	(手術日)	
皮膚科		井関 梢 奥山智香子	大田 玲奈 奥山智香子 宮川 健彦	井関 梢 奥山智香子 大田 玲奈	井関 梢 奥山智香子 宮川 健彦	井関 梢 奥山智香子	
泌尿器科		武田 英男 黄 和吉	佐藤 信夫 齋藤 心平	佐藤 信夫 (手術日)	佐藤 信夫 金 尚志	佐藤 信夫 日野 大地	
産婦人科		齊藤 俊雄 佐々木直樹	大村 涼子 名古ゆり恵 (手術日)	齊藤 俊雄 長嶋 武雄 (手術日)	名古ゆり恵 鷺田 貴一	佐々木直樹 [交替医] (手術日)	(金) 交替医は午前のみ
眼科		小林 悠里 武石真里恵	松枝 美文 (手術日)	上原 七生 松枝 美文	小林 悠里 小林 晋二	小林 晋二 名木野 佑	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
耳鼻いんこう科		小林 皇一 兼坂 寛子	(手術日)	小林 皇一 兼坂 寛子	[交替医] (手術日)	小林 皇一 木村健太郎	
放射線治療科		有賀 隆	有賀 隆	岩井 祐磨	小池 直義	有賀 隆	完全予約制
麻酔科		[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	[交替医]	午前9:00～11:00 予約患者のみ
歯科口腔外科		村野 彰行	高原 利和	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	
特殊外来	女性専用(内科)			古池 織恵			予約患者のみ
	腎臓内科(内科)		梶原麻実子				午後1:30～ 予約患者のみ(電話可)
	神経内科(内科)			能勢裕里江			午後1:30～ 予約患者のみ(電話可)
	ステントグラフト外来(心外)		櫻井 学				午後1:30～
	ペースメーカー外来			[交替医]			午後1:00～
	小児循環器(小児)	佐藤 純一 竹本 直輝	村社 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ(火)は第2・4
	小児神経(小児)		高梨潤一(月1回)		牧野道子(月1回)・ 内山 薫(月2回)		午後 予約患者のみ
	小児腎臓(小児)				秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回
小児アレルギー(小児)					下条 直樹	月1回 午前9:00～予約患者のみ	
小児外科(外科)				小松 秀吾		午前のみ(午後手術)	
脳神経内科(脳神経外科)				宗像 紳		東 美和	(木)第2・4 午後2:00～ 予約患者のみ (金)午前9:30～ 予約患者のみ

担当医師は、状況により変更することがありますので、受診の際には当院のホームページ等でご確認ください。

※特殊外来の小児循環器、小児神経、小児腎臓、小児アレルギーの予約および予約変更は午後2時から4時の間に小児科外来へ電話してください。